



国立大学法人
奈良女子大学
Nara Women's University

旧奈良女子高等師範学校本館《重要文化財》

記念館一般公開



入場無料
予約不要です

平成30年4月30日(月・振休)～5月6日(日)
午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

特別展示

奈良女子高等師範学校の教材
明治・大正・昭和初期のおもちゃ

繰合せ(相撲)
(大正11年2月購入)



キャッチ玉投げ
(大正15年3月購入)



マーストヘンゲル
(昭和3年1月購入)

百年ピアノコンサート

演奏者：千葉 いづみ 氏
5/3(木・祝)、5/4(金・祝)
各日 午前11時～午前11時30分
午後2時30分～午後3時



交通
近鉄奈良駅①出口から徒歩約5分
JR奈良駅から市内循環バス
近鉄奈良駅前下車徒歩約5分
※車での来場はご遠慮願います。

連絡先
奈良女子大学
総務・企画課広報係
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3220
FAX.0742-20-3205



記念館ホームページ

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/faculty/kinenkan/index.html>

奈良女子大学 記念館について



奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は1908(明治41)年3月に設置され、翌年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908(明治41)年2月からはじまり、翌年10月には主要な建物が完成しました。現在、奈良女子大学記念館としている建物は、奈良女子高等師範学校本館としてこのとき建設されたものです。

設計は京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が行いました。

木造二階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフティンバー形式をとっており、屋根には頂塔およびドーマー窓が設置されていることにあります。1階は中央に廊下が配され、これを挟む形で7室が設置されています。建物両端にある階段で2階に上ると、フロア全体が大きな講堂となっています。講堂内には柱は用いられず、中央部に二重に織り上げた天井には明かり取りの窓が配され、広々とした空間が広がります。

1994(平成6)年2月から6月にかけて改修工事が行われ、同年12月27日に正門および守衛室と併せて重要文化財に指定されました。その後も空調設備工事・外壁改修など、その時々適切な修理を行い、2014(平成26)年12月25日から2015(平成27)年12月にかけては、これまでにない長い時間をかけて大規模な耐震補強工事を実施しました。この工事に際しては、文化庁・奈良県の指導を受けて、歴史的建造物の文化的価値を損なうことのないよう、細心の注意を払い設計、施工がなされました。

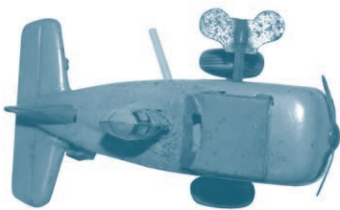
日本館は建設以来、改変された箇所はほとんどありません。現在も2階講堂内部には奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子がそのままに並び、開校時に購入した最も古い国産ピアノのひとつであるとされる「百年ピアノ」が置かれ、往事を偲ぶことができます。

特別展示

奈良女子高等師範学校の教材

明治・大正・昭和初期のおもちゃ

ライト付パッカード自動車
(昭和12年2月購入)



ブリキの飛行機のおもちゃ
(昭和12年2月購入)



ゼンマイ仕掛 電車廻り
(昭和4年8月購入)



汽車遊び
(昭和9年5月購入)



文福茶釜
(昭和4年12月購入)

今回の特別展で展示するおもちゃの多くは、株式会社三越呉服店大阪支店ならびに株式会社三越大阪支店から購入されたものです。これらのおもちゃたちは、奈良女子高等師範学校が当時、時代の最先端をいく児童用品の数々を教材として集めていたことを示す、貴重な資料となっています。明治39年、日本最初の児童博覧会といわれる「こども博覧会」が東京・上野で開催されました。この博覧会は、「学校および家庭の教育上に資すると同時に、子どもに清新なる娯楽を与える」ことを目的としていました。そのため、子どもの衣食住、読み物、玩具、絵画など、子どもに関するあらゆる品物が収集され展示されました。当時、家庭教育の重要性が注目され始めていたことは、博覧会の展示品が子どもの衣食住から教育、娯楽にまで渡っていたことからわかります。この時期には、特に玩具の教育的意義も意識されはじめていました。玩具の進歩の程度は、その国の文明開化の発達程度を示すものだと意識されていたようです。「児童への関心の高まり」を受けて展開されたこれらの活動は、子どもの生活に関するものを広く取り扱っていましたが、なかでも玩具の改良と考案に力が注がれました。家庭教育の重要性が浸透しはじめた明治の家庭において、遊びながら学ぶことのできる玩具は、子どもの教育という観点において関心が高いものであったようです。

奈良女子大学記念館 館長 藤原素子